

2022年5月のレコードコンサート

☆…今月のテーマ：【お菓子】

♣…ジャズビギナーにオススメ

日	曜日	管理番号	ジャケット名	アーティスト	ひとこと	
☆	1	日	05205	アーロン・トゥゲザー	ジム・ホール、ロン・カーター	静かなスタジオではなく、聴衆の反応を含めて演奏により輝きを持たせた一枚。
☆	2	月	03974	フリップ	フリップ・フィリップス	♪「クッキー」収録 スウィング感や切れが狂巻のオリジナル曲。
☆	3	火	00992	ソングス・エヴリパディ・ノウズ	ビング・クロスビー	《記念日》1903年5月3日生
☆	4	水	09637	1+3	ロン・カーター	♪「マフィン」収録 軽快で爽やかな曲想を持つオリジナル・ナンバー。
☆	5	木	10291	ダグリ	峰 厚介	幅広い音楽性を披瀝した初期の傑作！
☆	6	金	09292	ピアノ・スターツ・ヒア	アート・テイタム	常に天才と呼ばれ続けたピアニストの真髄に迫る一枚。
♣	7	土	05468	ハロー・ハービー	オスカー・ピーターソン	ハーブ・エリスと10年振りに共演した、歴史的なセッション。
♣	8	日	08832	ブルー・ムーン	カーメン・マクレエ	1956年録音、デッカ専属時代のマクレエの魅力を詰め込んだ名盤。
♣	9	月	01992	マジョルカ	松岡 直也	《記念日》1937年5月9日生
☆	10	火	00779	スモーガスボード	スリム・ゲイラード	♪「ポテト・チップス」収録 珍しい調で個性を十分に出した楽しい曲。
☆	11	水	—	休館日		
☆	12	木	00151	イーストワード	ゲイリー・ピーコック	《記念日》1935年5月12日生
☆	13	金	07092	ブリースティス	ギル・エヴァンス	《記念日》1912年5月13日生
☆	14	土	10056	マイルス・デイヴィス・アンド・ホーンズ		♪「テイスティ・ブディング」収録 モダンなテーマ・アレンジが聴けるナンバー。
☆	14	土	—	19:00～ブルー・ウェーブ・ジャズ・フォーラム・レコードコンサート 『あり余る才能を発揮させた巨人の傑作』チャールズ・ミンガス「ミンガス・アー・アム」		
☆	15	日	08979	トニー	トニー・ベネット	シンガーとしての地位を確立した初ヒット曲「ブルーバード・オブ・ブローケン・ドリーム」を収録。
☆	16	月	01791	セイリング・ワンダー	増尾 好秋	♪「クラッカー・ジャック」収録 力強いジャズとロック調の演奏が特徴。
☆	17	火	04500	コインサイド	デューイ・レッドマン	《記念日》1931年5月17日生
☆	18	水	—	休館日		
☆	19	木	10463	ジャマイカ・ジャズ	ドン・エリオット	♪「リトル・ビスケット」収録 全曲ギル・エヴァンス編曲の知られざる名作。
☆	20	金	11687	ザ・ヴェリー・ベスト・オブ・ジミー・ランスフォード		♪「チョコレート」収録 第一級黒人バンドの迫力を聴ける楽曲。
☆	21	土	11725	ザ・グレイト・ファッツ・ウォーラー	ファッツ・ウォーラー	《記念日》1904年5月30日生
☆	22	日	00122	モダン・ジャズ・パースペクティブ	ドナルド・バード、ジジ・グライス	双頭グループ「ジャズ・ラボラトリー」。コンセプトはハード・バップを継承しつつ表現の可能性を追求。
☆	23	月	08581	ポア・ジャンゴ	ブルー・フェレ、エリオス・フェレ	♪「マーシュマロウ」収録 火花の散るような、テクニカルな快演。
☆	24	火	03391	ザ・フェイブル・オブ・メイベル	サージ・チャロフ	1957年にこの世を去った夭折のバリトン・サクソ奏者サージ・チャロフによる隠れた名セッション。
☆	25	水	—	休館日		
☆	26	木	09222	イフ・ユー・ゴー	ベギー・リー	《記念日》1920年5月26日生
♣	27	金	04005	ヴァーチュオーゾ	ジョー・バス	ジャズ・ギターの神様ジョー・バスによるソロ演奏の最高傑作。
☆	28	土	03394	ドクター・ジャズ	ジョージ・ルイス	♪「アイスクリーム」収録 I screamとIcecreamを掛けた歌詞に注目。
☆	28	土	—	19:00～ブルー・ウェーブ・ジャズ・フォーラム・レコードコンサート 『ビッグバンドの巨匠が挑んだピアノ・トリオ作品』デューク・エリントン「マネー・ジャングル」		
☆	29	日	01171	ルイ・アームストロング '66	ルイ・アームストロング	♪「チーズケーキ」収録 軽いスウィング感を聴かせる快調なボーカル。
☆	30	月	05773	スウィング・スウィング・スウィング	ベニー・グッドマン	♪「ポップコーン・マン」収録
☆	31	火	05251	ア・ウィークエンド・イン・パリ	クリス・コナー	モダン・ジャズの名歌手クリス・コナーによる絶頂期の名盤。